

1 アメリカ独立革命の進展

植民地とイギリス本国の連帯

1584 ウォルター・ローリー(英)のヴァージニア植民(失敗)
 1604 フランス、カナダ植民開始
 1607 ヴァージニア植民地(北米最初のイギリス植民地)建設
 1608 フランス、ケベック市建設
 1619 ヴァージニア植民地議会(アメリカ最初の議会)設置
 1620 ビルグリム=ファーザーズのプリマス上陸
 1642 フランス、モンリオール市建設
 1651 航海法
 1664 英蘭戦争(1652~74)でニューアムステルダム占領 → ニューヨークに改名
 1682 ラ=サール(仏)、ミシシッピ川流域をルイジアナと命名
 1689~97 ウィリアム王戦争(ファルツ継承戦争の一環)
 1699 羊毛品法
 1702~13 アン女王戦争(スペイン継承戦争の一環)
 1731 帽子法
 1733 ジョージア植民地建設 → 13の植民地成立
 1733 糖蜜法
 1744~48 ジョージ王戦争(オーストリア継承戦争の一環)
 1750 鉄法
 1755~63 フレンチ=インディアン戦争(七年戦争の一環)
 1763 パリ条約 イギリスはミシシッピ川以東のルイジアナを獲得

イギリスの重商主義政策

13植民地の成立

植民地はフランスの脅威がなくなり、本国を頼る必要がなくなる

植民地と本国の対立

1765 「代表なくして課税なし」の決議
 1765 印紙法
 1767 イギリス製品不買運動
 1767 タウンセント蔵入法
 1773 ボストン茶会事件
 1773 茶法
 1774 第1回大陸会議開催(フィラデルフィア)
 1774 高圧的諸法(例:ボストン港閉鎖)
 1775 パトリック=ヘンリの演説「我に自由を与えよ。しからずんば死を与えよ。」

重商主義政策の強化

植民地の反抗

1775~83 独立戦争 (P155 表)

1775 レキシントンの戦い(独立戦争開始)
 1776.1 トマス=ペイン「コモン=センス」発刊 (P242 表)
 1776.7.4 独立宣言(トマス=ジェファソン起草)
 1777.10 サラトガの戦い(植民地勝利)
 1778 フランスの参戦
 1779 スペインの参戦
 1780 オランダの参戦
 武装中立同盟結成(ロシアのエカチェリーナ2世提唱)
 1781 ヨークタウンの戦い(植民地勝利・独立戦争実質的終了)
 アメリカ連合規約の発効(1777年成立) → 連合会議発足
 1783 パリ条約(独立の承認)

合衆国の誕生

1787 合衆国憲法の制定(← 憲法制定会議で連邦派と反連邦派の対立)
 1788 アメリカ合衆国憲法成立(翌年13州の批准完了)
 1789 ワシントンが初代大統領に就任

2 アメリカ13植民地の成立

植民地・設立年	設立者・特色
ヴァージニア 1607	ヴァージニア会社
プリマス 1620	ピューリタンの分離派 1691 マサチューセッツに併合
マサチューセッツ 1629	マサチューセッツ湾会社
ニューハンプシャー 1629	1679 マサチューセッツより分離
メリーランド 1634	ポルティモア卿
ロードアイランド 1636	ロジャー=ウィリアムズ
コネティカット 1636	トマス=フーカー 1639 コネティカット基本法
南北カロライナ 1663	クラレンドン卿以下8人の貴族 1729 南北に分離
ニューヨーク 1664	ヨーク公
ニュージャージー 1664	ジョン=パークレー ジョージ=カータレット
ペンシルヴァニア 1681	ウィリアム=ベン クエーカー教徒
デラウェア 1682	1703 ペンシルヴァニアより分離
ジョージア 1733	オーグルソープ

設立当時、は自治植民地、は領土植民地であったものを示す。

13植民地の自治

植民地議会

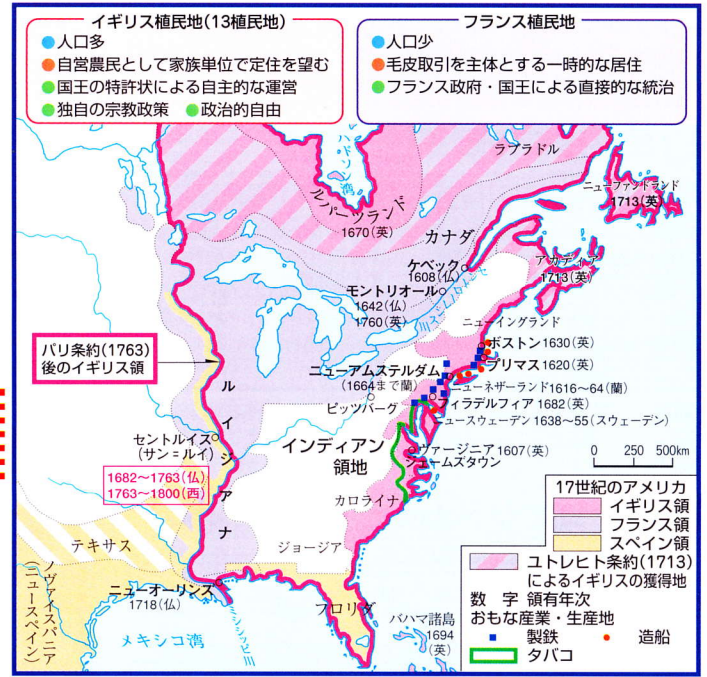
- ヴァージニア植民地議会(1619)が起源
- 有産階級による制限選挙
- 植民地の立法・課税・司法などの諸権利

北部 タウン=ミーティング
 各村落の教会を中心とする直接民主政方式による寄り合い制度(植民地により違いがある)

南部 カウンティ制度
 本国の議会制度を模した代議制によるカウンティ(郡)の制度(植民地により違いがある)



3 18世紀中頃のアメリカ

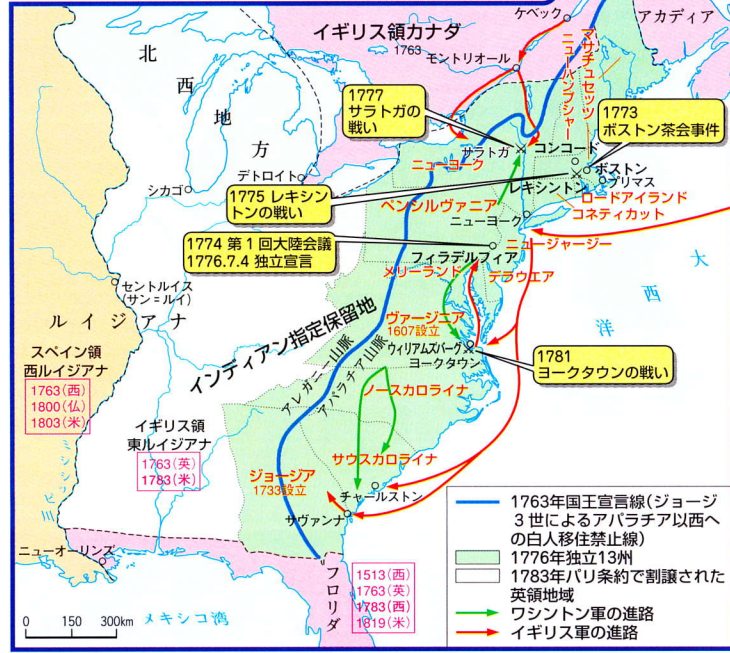


サンタスキピング
収穫感謝祭(プリマス) 1620年12月ニューイングランドに上陸したビルグリム=ファーザーズは厳冬の中で半数が死亡したが、アメリカ=インディアンにとりもろこし栽培を学び危機を脱した。翌年、七面鳥やかまぼこを焼いて収穫を祝ったのが祭りの起源である。

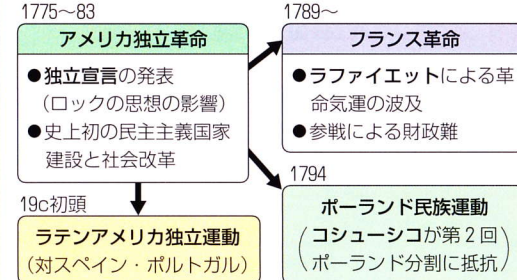




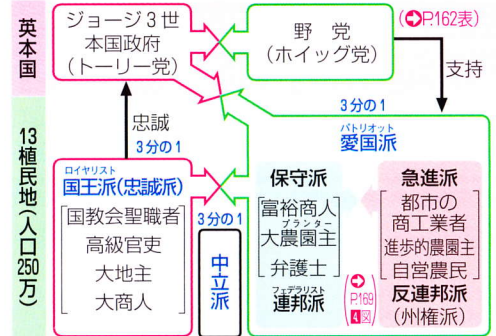
6 アメリカの独立戦争(1775~1783年)



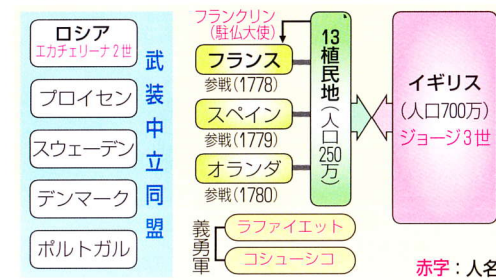
7 独立の世界的影響



4 アメリカ独立戦争時の対立関係



5 独立戦争の国際関係



史料 アメリカの独立宣言(部分)

われわれは、自明の真理として、①すべての人は平等に造られ、造物主によって、一定の奪いがたい天賦の権利を付与され、そのなかに生命、自由および幸福の追求の含まれることを信ずる。また、これらの権利を確保するために人類のあいだに政府が組織されたこと、そしてその②正当な権力は被治者の同意に由来するものであることを信ずる。そして③いかなる政治の形態といえども、もしこれらの目的を毀損するものとなった場合には、人民はそれを改廃し、かれらの安全と幸福とをもたらすべしとみとめられる主義を基礎とし、また権限の機構をもつ、**新たな政府を組織する権利を有することを信ずる。**

①近代自然法思想(16~17世紀に専制権力に抗する論理として形成) ②社会契約説
③革命権(抵抗権)(17世紀イギリスの思想家ロック(●P145表)により発展)

「万能の政治家」フランクリン(1706~90)



独立宣言の署名



アメリカ英語 — 文化的な独立 —

独立を政治面だけでなく、文学や芸術など文化面においても実現しようとしたノア・ウェブスターは、1783年アメリカ独自の単語を掲載した教本を著した。この本はたちまちベストセラーとなり、後のアメリカ英語の権威となる『ウェブスター辞典』のモデルとなった。

ウェバー ジェニヤ州 ウィリアムズバーグ 独立当時の国旗(星が13)

ウェブスター(1758~1843)

ウェブスター辞典

独立記念日のパレード

合衆国では毎年7月4日の独立記念日に各地で式典が行われる。特に1976年は建国200周年にあたったことから盛大な行事が開かれた。